の向こうを指さしながら、
「あんたたちに教えておくが、ちょうどこの方角が龍宮城じゃわね」
と、こわいようなまじめな顔で教えてくれた。
しばらくして、このおじいさんは亡くなったと聞いて、お見舞もしてあげられなかったのがくやしかった。妹と二人で松山の中のお墓をさがし出した。墓標だけがぽつんと建っているのにお花を上げ、お礼をいって帰った。
龍宮城のことをおじいさんが教えてくれた所の後に、浦島荘が建っているが、浜辺に立つと、おじいさんのことがなつかしく思い出される。

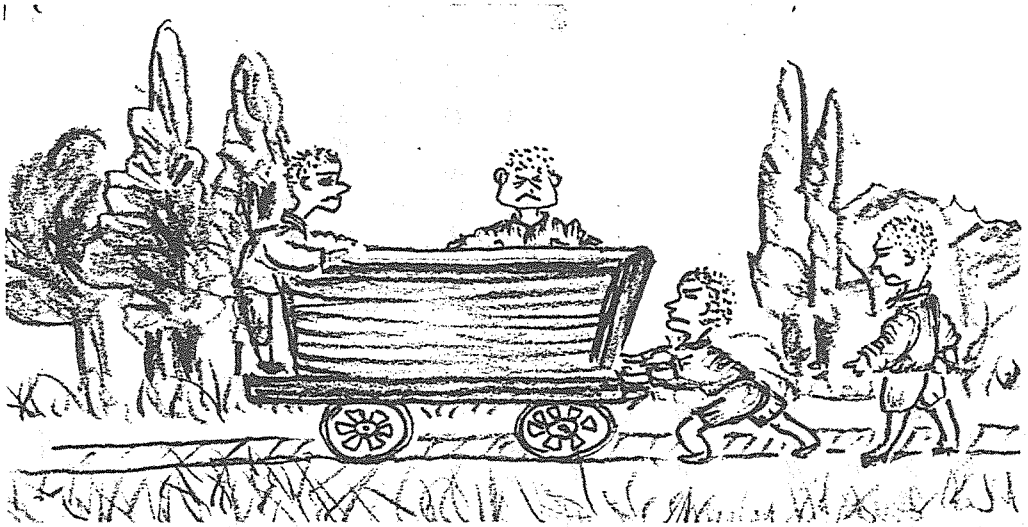
昔の下屋敷と子どもたち

下屋敷老人クラブ

今からおよそ五十年前の昭和七、八年頃の下屋敷の模様です。当時の戸数は大変少なく、僅か五、六軒でほんとに寂しい限りでした。現在は数多くの家が立ち並び、百五十戸ほどになっているのを見ますと、僅か半世紀の間によくもこんなに発展したものだとびっくりします。
周囲の様子も全く変わっています。当時は駅に通ずる広い道はなく細い道でしたし、村全体に竹、樫（かし）、たぶ等の大木が生い茂って、村というより山と言ったほうがよいように思われました。ですから夜道を歩く時は真暗で道が見えず、上を見て僅かに見える星をたよりに歩くといった有様でした。
お稲荷さんは、まだずっと昔から建てられていたようで、境内には大きな〝くろがねもち〟の木が立っていました。私達小学生の子どもは、日曜日がくると神社に集まり掃除をしたものでしたが、男の子は外回りを、女の子は社殿の拭き掃除でした。そして、皆で掃除をした後

は木に登ったり、陣取りしたりして大騒ぎしながら遊んだものです。又、時々は菖蒲池の神社へも掃除に出かけました。昔は地区の神様をとても大事にしたものです。

現在の中鶴街道が出来たのは昭和七、八年頃だったと思います。当時としては、最新の道具「トロッコ」が使われました。予定の道筋にレールが敷かれトロッコを走らせて、土砂を運搬したのです。私ども子どもはそれが珍しく、暇があると見に出かけました。そして物珍しく、トロッコを押すのですが、工事の人に見付かるとこっぴどく叱られたものでした。それでもトロッコを扱いたくて、友達同士誘いあって見にいったものでした。



又、私どもの子ども時代は暇があると親に引っ張り出されたものです。日曜日等は一日に二回は山へ薪とりに行かされました。田畑の手伝い、子守等はしょっちゅうでした。しかし、楽しみもありました。魚取りです。とくに水がでると、夜、松火をとぼして出かけるのです。昔は魚だって子どもにでも取れる位いっぱいいましたし、魚を取ることも上手でした。

私どもが昔の事で心に強く残っていることの一つに、村中の人達が親類以上の付合いをしながら、固く結ぶばれていたことです。珍しい物が出来たり、貰ったりすると必ずお裾分けするのです。その頃はお菓子などあまりなかったので、どこの家でもよく〝だんご〟が作られました。母は〝だんご〟が出来るとすぐに「〇〇さんとこにもっちけ」といって方々に届けさせましたし、又、よそからもよく戴いていました。

編集後記

✡ 民話・伝説は私達の心の故郷として、当時の人々の生活を偲ぶことができる。つまり人々の生きざまとか、ものの考え方などが率直に語られており、現代の私達に対しても少なからず示唆を与えてくれるものがある。又、自然に対してはその美しさ偉大さにあこがれ、畏敬の念を抱きつつ生活の中に生かしている。

こう考えて見ると、民話とか伝説は庶民の歴史の一端であり、大事にしながら子々孫々に語り継いでいかねばならないことを痛感する。

✡ 日向には有史以前における数々の伝説が残されているが、ここ高鍋の地にも神話が伝承されているのではないかと期待しながら収集活動を進めていった。

既にご覧戴いたと思うが、「すね神さん」の伝説はまさしく神話にふさわしい神の物語である。編者はこの伝説に出会った瞬間、小躍りせんばかりに胸が高なった。この高鍋の地にも神武天皇が度々お出でになったというのである。広く収集活動を進めれば、これに類する伝説が求められるのではないかと思える。

しかしながら、古い話は次第に姿を消している。現に、第二集に収録直後、故人となられた方がいらっしゃるが惜しまれてならない。

✡ 収集に当たっては第一集と同様に、高齢者ボランティアグループ『ふるさとを伝える会』の皆さんに大変なお骨折りをおかけしましたし、大先輩の永友千秋先生・東中校長平田和彦先生には、特別な御指導、御支援を戴き、さらには町内在住のお年寄りの方々からも、暖かいご援助をいただいています。ここに、皆様方のご支援に対し心から感謝申しあげます。

✡ 収集いたしました分で、十数編を第三集へ掲載することにいたしましたので、ご了承ください。

（編者 … 古江 悦郎）

※ 収集協力者

○高齢者ボランティア『ふるさとを伝える会』会員

森　仲吉（鴫野）　永友　年明（持田）
原　重隆（竹鳩）　三嶋　敏（羽根田）
上野　正英（下屋敷）　西村　満（道具小路）
手塚　貞夫（蓑江）　押条　磯松（脇）
岩切　久江（中尾）　福永ミサオ（東平原）
黒木　文子（小丸下）　財津モトエ（川田）
河野　花枝（宮越）

※ 資料収集・調査・編集者

社会教育課長　松井　克興
〃　補佐　加藤　秀雄
社会教育指導員　古江　悦郎